

の農産物が出荷停止処分になりました。

牛乳等の乳製品、牛肉の出荷の停止もあり、これは牛が放射性物質が付着したを餌と与えられたため、チェルノブイリ事故後、多くの子供達が甲状腺異常が見つかったのも牛乳や乳製品を摂取したことが原因だと、因果関係が明らかになっております。

出荷停止が解除になってホットした農家の皆さん、またもや福島県産の米に基準値を超えるセシウム 137 が見付かり、再び出荷停止になりました。

Q：100mSv 以上では身体に異常が表れる、と説明を受けましたが、それ以下の場合  
は、身体的影響はないのでしょうか？

A：外部被曝であれば、100mSv 以上だと身体的な障害が現れることがある、と言うのが  
明らかになっていますが、内部被曝に関してはこれ以下なら大丈夫という基準はあり  
ません。

1987 年、チェルノブイリ原発事故でその北側に位置するベラル - シ共和国第二の都市、  
ゴメリ、人口 50 万の都市にあるゴメリ医科大学あり、その医大の学長であり、高名な医  
師でもあったユ - リ - ・バンダジェフスキ - 博士は事故後、死亡した人々を解剖して臓器  
毎のセシウム量を調べた。

その結果は、大人と子供、男と女で臓器毎の蓄積量が異なることを突き止めた。

放射能汚染の解剖結果、臓器毎のセシウムの蓄積の記録は世界初であり、貴重な資料と  
なり、世界がその論文に注目した。

ところがベラル - シ政府当局としては、放射線による被害は大量に被曝した場合にしか  
健康障害はない、としており、発表した論文を否定し、さらには 1999 年収賄容疑で逮捕  
し、禁固 8 年の判決で服役した。

国際人権団体アムネスティ・インタ - ナショナル  
は、原発被害者に対する政府の対応を公然と批判し  
たため、でっちあげ事件で逮捕されたとして、救援  
活動に乗り出し、その運動が功を奏し、2005 年に釈  
放された。現在はウクライナ共和国のキエフで研究  
を再開しています。

右は同氏の著書で、献体によるセシウム 137 の追  
跡解剖による被曝の病理デ - タですから、世界に例  
がない貴重な医学的資料です。

福島原発事故の医学的証言はこのデ - タからの引  
用が多いようです。

それによると、甲状腺が一番蓄積し易く

子供くち 1kg あたり 1200Bq、大人 400Bq、

心筋には子供 600Bq、大人 300Bq、

小腸には子供 700Bq、大人 300Bq、その他の詳しいデ - タが豊富に記載されている。

その他の内臓にも蓄積し心臓、腎臓、肝臓等で、子供は甲状腺、心臓の心筋に集中する

